

平成 24 年度新採用薬剤師ステップアップ研修会 開催報告

平成 24 年 7 月 7 (土)、標記研修会を鳥取県のほぼ真ん中に位置する倉吉市にある倉吉体育文化会館 教養室 1 にて開催いたしました。なお、参加者は 9 施設 17 名でした。

1. 目的

本研修会は、鳥取県内の病院・診療所に新採用になった薬剤師が採用後約 3 ヶ月経過したところで、これまでの業務あるいは各施設内の研修で学んだことを振り返り、次のステップに進むための夢や方向性について考えていただくため、病院薬剤師を取り巻く環境や業務の変遷、業務に関するトピックスや実施例を当県でご活躍中の先輩方から御紹介いただくもので、毎年、この時期に開催しています。

また、新人の皆様にとっては、東・中・西部と横に 100km 以上もある県内の他支部の新人と初顔合わせをし、日頃の疑問や問題点について情報交換し、横のつながりを構築できるまたとないチャンスになっています。

なお、本年度は、「新 100 点業務 (病棟薬剤業務実加算)」および「ICTにおける感染制御専門薬剤師の役割」をテーマに行いました。

2. プログラム

当日は、13 時より受付を開始し、以下のプログラムに沿って行いました。

13:30~14:30 基調講演「薬剤師の責務と職能の展開」

鳥取県病院薬剤師会会長(鳥取県立厚生病院 薬剤部長) 廣嶋 薫 先生

14:30~15:30 教育講演 I 「病棟薬剤業務の充実」(講演およびSGD)

鳥取市立病院 薬剤部長 西山 輝 先生

15:30~16:00 休憩

16:00~17:00 教育講演 II 「感染制御に関わる薬剤師の役割について」

山陰労災病院 ICT 西本 美由紀 先生

17:00 閉会

3. 概略

基調講演：冒頭、廣嶋会長より「病院薬剤師の業務とは？」との問いかけがなされ、「調剤や服薬指導を通じて、薬物療法の手助けをする」、「医師や看護師への医薬品情報の提供」などと答えるうちに徐々に参加者の緊張が解け、笑い声も出るようになってきました。

続いて、病院薬剤部門の法的な位置づけと法令遵守、会長の経験に基づいた過去 30 年間における病院薬剤師業務の変化について詳細な解説がなされ、「まさか、患者さんと直接向き合って服薬指導や副作用聴取をしたり、TDM結果から医師に薬用量を提案する時代が

来るとは思っていなかった。」「病院薬剤師が聴診器を携帯してフィジカル・アセスメントをしたり、個別の処方提案をすることが、次の当たり前になるまでには時間はかからないだろう。」と述べられ、「6年制になったとは言え、病院薬剤師としての専門性を高め、臨床業務を的確にこなしていくためには地道な努力、経験が必要。」「鳥取県病院薬剤師としても必要な集合研修は行っていくが、皆さん自身も日々、研鑽を積んでやりがいを持って業務にあたって欲しい。」とエールを送られました。



廣嶋先生による基調講演

教育講演Ⅰ：西山先生からは、「病棟薬剤業務の充実」と題して新100点業務（病棟薬剤業務実施加算）について詳細な講演をいただきました。初めに、「従来、薬剤師の病棟業務と言えば、薬剤管理指導業務すなわち服薬指導のことを指していたが、今後は違ってくる。」「中でも、持参薬の確認のみならず入院中の服薬計画の提案を行うことや必要に応じて流量や投与量の計算を行うなど、これまで評価されてこなかった内容についても必須要件になってきた。」「すなわち、病棟薬剤業務とは病棟において薬剤師が実施する病院勤務医等の負担軽減及び薬物療法の有効性、安全性の向上に資する薬剤関連業務」と概念図、施設基準に係る具体的実施方法なども交えて解りやすく解説がなされました。また、講演に続いて、参加者を2つの小グループに分けて、①服薬指導との違い、②病棟薬剤業務実施加算に携わるために何を学んでおけばよいか、の2点についてディスカッション（SGD）してもらい、その結果を発表してもらったところ、「服薬指導のときと違い、他職種とのコミュニケーションが重要になってくるのでは」、「ラボデータの見方や個々の患者の病態を判断するための学習や経験が必要」など主催者側の期待以上の回答がなされ、明るい未来を感じさせられました。

なお、初対面にもかかわらず、ディスカッションが盛り上がり、主催者側が止めることが出来なかったため、休憩時間が少ししか取れませんでした。（すみません）



SGD
グループ1



SGD
グループ2



SGDのまとめ発表

教育講演Ⅱ：最後に西本先生から、「感染制御に関わる薬剤師の役割について」と題して講演いただきました。西本先生は日頃、院内の感染制御チーム（ICT）で活躍しておられるだけでなく、地域の感染制御ネットワークにおいても専門家チームの一員として参加しておられるだけあり、「TDMの有用性と解析のポイント」、「VCMの初回実測トラフ値からみた初回投与設計の重要性と重回帰分析から検出された影響因子（eGFR,利尿剤, BMI）」、「エンピリック投与開始後のデ・エスカレーションの重要性」、「クリニカルパスへの推奨抗菌薬の組み込みによる周術期感染症対策」など感染症専門薬剤師としてのご活躍が伝わるお話をいただきました。（専門薬剤師制度の重要性が伝わってきました。）



西本先生御講演

会長による総括後、全員で集合写真を取って解散しました。(お疲れ様です。)



4. 謝辞

御講演いただきました先生方ならびに事務局の皆様ありがとうございました。

(文責：学術・生涯研修委員会委員長 森田俊博)